

おおくら 議会だより



すくすく育て子どもたち！（ヤマホン旅館のおひな様飾り）

もくじ

3月定例会	2～4P
一般質問	5～11P
視察・要望	12P
被災地を訪ねて	13P
そうだったの！村議会	14P

風水にふれる里
第 107 号
2016.春

発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報調査特別委員会 年4回発行
印刷／共栄印刷株式会社

平成28年度当初予算 **総額 55億7000万円 を可決**

一般会計 39億9000万円
特別会計総額 15億8000万円

- ①国民健康保険会計…………… 5億5100万円
- ②簡易水道会計…………… 1億8700万円
- ③下水道会計…………… 1億5800万円
- ④診療所会計…………… 2億2800万円
- ⑤介護保険会計…………… 3億9700万円
- ⑥浄化槽会計…………… 2900万円
- ⑦後期高齢者医療会計…………… 3200万円

新年度の主な事業

- ◆公設民営型の加工施設建設事業……7400万円
- ◆夏秋トマト・ミニトマト選果場の更新事業 ……2億円
- ◆赤松・通り・烏川地区圃場整備事業6000万円
- ◆スクールバス更新……………2000万円
- ◆道路改良事業……………2億4000万円
- ◆銅山川水力発電事業……………9300万円

補正予算 平成27年度補正予算8会計を審議・可決

	補正額	総 額	主な補正内容
① 一 般 会 計	6700万円	37億8400万円	水力発電事業積立金、年金生活者支援給付金の追加
② 国民健康保険会計	420万円	5億4000万円	保険給付費の増
③ 簡 易 水 道 会 計	△500万円	1億3200万円	使用料の減
④ 下 水 道 会 計	△200万円	1億6200万円	負担金、使用料の減
⑤ 診 療 所 会 計	△550万円	2億3600万円	診療収入の減
⑥ 介 護 保 険 会 計	300万円	3億8800万円	保険給付費の増
⑦ 浄 化 槽 会 計	△520万円	2930万円	工事費の減
⑧ 後期高齢者医療会計	△10万円	3010万円	保険料の減

請願の審議

★奨学金制度の充実と教育
 費負担の軽減を求める請
 願

◎請願者

山形県労働者福祉協議会
 理事長 岡 田 新 一

◎審査結果《採択》

国へ意見書提出

★TPP協定の国会批准し
 ないことを求める請願

◎請願者

農民運動山形県連合会
 会長 小 林 茂 樹

◎審査の結果《継続審査》

3月定例会

3月定例会が8日から11日までの会期で行われ、平成28年度の一般会計、特別会計予算審査を行い、可決。その他、平成27年度補正予算8議案を含め、43議案を原案通り可決・同意。

議案に先立ち、7名の一般質問が行われ、村長と様々な議論が交わされた。

議案審議

- は 今回審議された主な議案
- 公務員法の改正や職員の給与の改正による条例の設定等6議案
 - 「地方公務員法の改正に伴うもの」
 - 再生可能エネルギー導入事業（水力発電）に関する条例の設定
 - 「発電事業を行う事業者に資金を貸し付ける目的で基金を設置するもの」
 - 村税条例、国保条例、介護条例の改正等6議案
 - 「国の法改正に伴うもの、他、税率の改正、介護事業の基準改正等」
 - 村消防団に関する条例の改正
 - 「再編に伴う定員の改正」
 - 村簡易水道事業の一本化へ条例の改正
 - 「3事業に分かれていたものを一つに」
 - 村過疎地域自立促進計画等の策定2議案
 - 「新たに計画を策定するため」



- 新庄市との新庄最上定住自立圏形成協定に関するもの
- 「先に締結した協定を変更するもの」
- 平成28年度予算8議案
- 平成27年度補正予算8議案

人事案件

- 固定資産評価審査委員、情報公開審査会委員の方を選任しました。
- ◇固定資産評価審査委員 皆川 圭一氏【合 海】
 - ◇情報公開審査会委員 須藤 英光氏【平 林】
 - ◇情報公開審査会委員 山下 佳子氏【赤 松】
 - ◇情報公開審査会委員 松田 与市氏【合 海】
 - 人権擁護委員の方を推薦しました。
 - ◇人権擁護委員 大山 真照氏【沼の台】
 - ◇人権擁護委員 小屋 久好氏【季の里】
 - ◇人権擁護委員 長南 智美氏【豊 牧】

予算審査

平成28年度当初予算の質疑応答
●主な内容を紹介●

歳入

- 問** 地方交付税8,000万円増額の内容は。
- 答** 人口減少対策に係る経費。
- 問** ふるさと納税の予算額が1,000万円であるが、もう少し上乗せ計上は出来ないのか。
- 答** 26年度は1,000万円くらいだが、27年度は約400万円と少ない。今年度は目標に向けて努力する。

歳出

- 問** 特定教育保育施設型給付費負担金とは。
- 答** 27年度からの事業で、国の交付金。主に保育所の運営費。
- 問** 海外研修の効果はあったと思うが今年度はないのか。
- 答** ふるさと人材育成研修事業業務委託料に入っており、海外だけでなく、国内も含め研修を行う。
- 問** 地域おこし協力隊員の退職理由と、今後どのように募集するのか。
- 答** 自分の考えと地域の考えに隔たりがあり、地域に馴染めなかった。募集に関しては多方面に声かけはしているが、まだ申し込みはない。
- 問** 村営バスの購入を計画しているが。
- 答** 29年度から山交バスの運行が廃止も含め大きく変わる予定なので26人乗りを予定している。
- 問** 大蔵村土地改良区補助金の内容は。
- 答** 職員2名体制で、基盤整備事業先進地視察研修などの国の補助事業費も含めて、総額630万円。
- 問** 人件費の補助は、恒久的なものではなく、改良区が一本化するまで2・3年を目途にしている。
- 問** 肘折いでゆ館指定管理委託料増の内容。
- 答** 震災以後利用客減少による収入減の補填を2年間行なった。さらに、県道の崩落事故による利用客の減少などで前年度の欠損額が1,000万円、これの補充。
- 問** 湯の台スキー場の修繕費や、管理委託料の内訳。新車の導入を考えては。
- 答** 修繕費は圧雪車の修繕費、委託料は年間340万円である。新車の導入は今後検討する。
- 問** 大坪線の防雪柵がまだ完成していないが今年も継続するのか。
- 答** 残りの区間に農産物加工施設が建設されるので、その後に設置したい。
- 問** 防犯カメラの設置台数と防犯対策は。

特別会計

- 答** 小中学校に一台ずつ設置している。防犯についてはインターホンなどで学校の先生が対応している。
- 国保**
- 問** 基金繰入金と繰越金併せた3,000万円の剰余金はなぜ必要なのか？
- 答** 単年度事業では毎年赤字経営で、医療費は予測がつかず、3,000万円の剰余金はその準備金のようなもの。
- ◎反対討論（佐藤雅之）**
保険税を増額にする予算編成であり、村民の負担を重くすることになる。3,000万円の剰余金があれば、それを取り崩し活用して村民の負担を軽くすべきである。
- ◎賛成討論（長南正一）**
前年より、2,700万円ほど収入は多くなっているが、単年度実績では毎年赤字である。毎年基金の取り崩しを続ければ運営不可能となる。医療は予測のつかないものなので適正な予算である。



- 【結果】**
賛成8・反対1で可決された。
- へき地診療所**
- 問** インフルエンザワクチンを安価なものを使えば、村民の負担減になるのでは。
- 答** ワクチンは2種類あるが、より効果をとの考えにより、本村は4,500円のワクチンを使用している。役場より1,000円の補助がある。

一般質問



加藤 忠己 議員

村の6次産業化の今後は？ 村長 農産物加工場の建設に着手

- 問1** TPPが大筋合意に至りその影響が懸念される。6次産業化はそれに屈しない強い日本の農業を作るためにも必須だ。農産物加工施設建設のために村が土地を取得するとの計画は、6次産業化へ向けて一歩前進だと思ふ。
- 答1** これまで、生産拡大に主眼を置いてきたため、6次産業化への取り組みを事業化できずにきた。生産額3億5千万を越えるトマト産地として、トマトを使った村独自の純村産の加工品がないのは寂しい。今般、村が事業主体とな

り村道大坪・福田工業団地線沿いに3,000㎡の土地を購入し、農産物加工場の建設に着手する。現在、基本設計を発注し施設の規模、機械設備の検討を進めている。

新年度に実施設計を行い、建築工事は8月を目途に着工し年度内の完成を目指す。事業は、トマトの1次加工及びトマトジュースの製造販売、山菜・野菜の加工品の製造販売を中心に稼働したい。その後、村で委託製造している「おおくら君」の水や炭酸水の製造販売、さらに、各農家からの農産物の加工受託等も検討したい。処理加工は確かな販売先を持った委託業者を募集し、指定管理としたい。山菜の処理期間は5月の1ヶ月、トマト、野菜の生産期間は4ヶ月間で、取扱処理期間、処理量とも通年操業に必要な処理量には対応できず、通年操業はかなり





佐藤 雅之 議員

村民の健康増進と肘折のファン作り に「寿湯友事業」の復活・拡充を

村長 魅力を創出する事業を 肘折温泉自ら考えていただく

問 国民保養温泉であり国民保養温泉でもある肘折温泉だが、入込客は大きく減少傾向にある。村内でも「うしく肘折に行っていない」という声も少なからず聞く。村民の健康増進や湯治文化の醸成、肘折のファン作り以前行っていた「大蔵村寿湯友サービス事業」を復活し対象を拡充してはどうか。

答 肘折温泉郷振興(株)に補助金を出し、肘折いでゆ館が、利用者の入浴料を無料

にするだけの事業では進歩がない。利用券の無料配布は考えていない。
県内全市町村が温泉を有し、誘客を図っている中で、いかに魅力を創出していかかが問われる。利用していただけるよう事業を肘折温泉自らが考えていただく。



肘折いでゆ館

店舗や事業所のリフォームにも補助枠を広げ地域商工業を応援しては

村長 特産品や食の開発に向けた支援を優先

問 平成23年度から県と村で実施している「住宅リフォーム総合支援事業補助」は利用者や地元施工業者からの評判も良く、地域経済に波及効果をもたらしている。店舗・事業所版のリフォーム事業補助を実施し、

商工業者の事業継続を後押しし、店舗などのバリアフリー化や外国語表記による外国人対応などをはかっている。この補助金の目的は、

村民が安心して安全に暮らせる居住環境を整備すること。

事業継続を直接後押しする支援は、施設の改装やリフォーム事業の支援よりもお土産などの特産品や旅館における食の開発に向けた支援を優先すべき。

保育士の確保と処遇改善に村は総合的な支援を

村長 職員採用に応募してもらえるような施策を

問 保育のニーズが高まる中、保育士などの専門職が全国的に大幅に不足している。県は来年度予算に「保育士の人材確保」を盛り込んでいる。村としても奨学金制度の上乗せや、賃金、雇用面での処遇改善、キャリアアップの作成など、人材確保のため総合的な支援

を行ってはどうか。

答 職員の募集を行っているが、適正な人材の応募がない状態。この状態が続くと保育サービスの一部に支障をきたす。早急に解決しなければならぬ。

村では専門学校についても奨学金制度の対象としており、他の制度との併用を

制限しておらず、上乗せして借り入れることも可能。臨時雇用職員の処遇改善については、賃金面の改善に努めている。

今後は、各種養成学校等へのアプローチを図り、職員の採用に応募してもらえるような施策を考えていきたい。



佐藤 勝 議員

減反政策廃止後の農政はどうなる

村長 施設園芸・担い手・コスト低減へ

問 平成30年から米の生産調整に係り、国の方針として減反政策を廃止するという報道がある。農業はTPP関連で厳しい状況になることが予想される中で、減反政策の廃止は、農家にとって多くの問題を抱えることになる。

問題①過剰米による米価下落の対応は？

②転作奨励金が収入の多くを占める「そば・ネギ・山菜」などの作付けは？

③山間地から平場への農地貸付の減少対策は？
④廃農者の増大と耕作放棄地の拡大対策は？
⑤転作田や自己管理農地の再活用にする費用対策は？



答① 中山間地域直接支払い制度などの活用を配す。また、他地域との交流によりマンパワー不足へ対応する。

答② 施設園芸を中心にした、認定農業者、担い手の育成、集落営農の更なる推進により生産コストの低減を追求する。

答③ 国の政策による恩恵を最大限享受できる体制を整備し、厳しい情勢に対応する。

柳瀨・豊牧線鳶郷地区の道路改修は

村長 進捗状況を踏まえて検討

問 鳶郷地区の道路改良は、災害時の迂回路・肘折温泉や棚田への観光客の誘致・郵便物等の配達による情報伝達など重要な路線である。

村長は、「現在は通学路線を優先的に整備し、この路線は国道の災害復旧工事が終了した時点で、国や県に強く要望して行く」と以前の質問に答えているが、その後の経過と現況は？

と位置づけている。

現在進めている村道整備の進捗状況を踏まえ、国道との取り付け部分の変更や雪崩対策等を含め着工に向け検討したい。

答 毎年、道路新設改良費には2億円前後の予算を投じて整備している。本村は山間部であるため工事費が割り高で、なかなか整備が進まない状況にある。

本路線の整備について現段階では具体的な着工年度等を示すことはできないが、村としても重要な路線であ





早坂 民奈 議員

高齢者、子育て世代や村民が集えるミニストア併設の居場所（サロン）づくり

村長 身近なサロンを5ヶ所で開設。買い物など、生活全般の支援は今後検討してゆく

問1 中心地である清水地区には、店舗の廃業、撤退により、役場、診療所に来ても、世間話をする場所がない。村営バス待合所が開放されているが、あまり利用されていない。気軽に近所の方や高齢者、子育て世代も立ち寄れる居場所が欲しい。そこに、生活必需品

答1 包括支援事業の立場から、生活支援体制整備事業の一環として、生活支援コーディネーターを配置し、高齢者が自立して元気に暮らすことが出来るよう交流サロンを開設する。

①について、歩いて行ける場所として、来年度から村内各地に順次計画している。開設については、地域住民やボランティア等の組織で自発的に行うものに対しては、村が支援してゆく考え。

②について、各地の公民館を利用。

③について、ミニストアの併設は考えていない。

④について、サロン自体の専従は考えていない。生活全般の支援は今後検討してゆく。

問2 商工会女性部との語る会でも、ミニスーパーが話題となったと聞いている。診療所等にくた方や、足が悪くて遠くまで行けない方々が、時間をつぶし、買い物が出来ると。そんな、小さくとも、居心地の良い居場所をめざしてはどうか。

答2 ミニスーパー構想は、商工会もマルシェ等で頑張っており、今後、勉強会も行い、協力してゆく。サロンは、健康教室など、村内5ヶ所で開設予定である。

問3 既定のプログラムのサロンではなく、誰もが利用でき、いつでも立ち寄り、いつでも帰れ、自由に好きなことが出来る常設のサロンを民間で開設する場合、支援はどうか。

答3 計画内容にもよるが、支援については一概には言えない。



海藤 邦夫 議員

地域創生を中山間地域農業振興にどう結び付けるのか？ 村長 「日本一美味しい山菜の産地化」を

問1 当村は中山間地域が多く、四ヶ村は「棚田百選」にも選ばれている。しかし、棚田では基盤整備が難しく後継者の不足もあり農地が荒廃し、耕作放棄地が多くみられる。TPPの発行により、農産物の下落が心配される。

主要作物である米価が下落すれば、採算が取れず米を作る農家が減ってしまう。農地の保全や集落機能の維持も難しくなり、いっそうの人口減少にもつながる。

中山間地域の農業をどう維持し、創生してゆく考えか？

答1 現在策定中の村の総合戦略では、生業創出と既存産業強化による地域創生戦略として、稼げる農・畜産業等のための支援を掲げている。

当面は、稲作等の基本的な収入源をベースに、小さくとも、差別化、高付加価値化に取り組み、転作田への山菜の作付けを推進し「日本一美味しい山菜の産地化」を図っていく。

また、都市と農村の交流により、農作業体験、山菜取りの体験など肘折温泉との連携による旅行商品やお土産品の開発をおこなう。

平成28年度から取り組む村農産物加工場や肘折温泉朝市と協力してゆく。

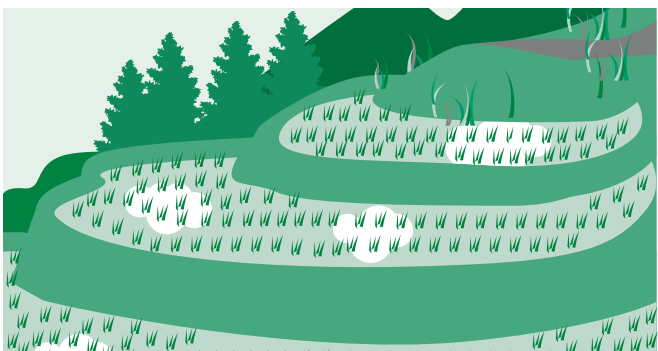
小ロット・多品目の販売戦略としては、今年度開設したアンテナショップ「レアルタ」への農産物供給は、タイムリーな事業展開といえる。

耕作放棄地の問題は、現状のマンパワーと地域連携により、多面的機能支払、中山間地域等直接支払制度を最大限活用して取り組む。

元気な中山間地域は、行政からのサポートによる「きっかけ」と地域外からの意欲的な取り組み、それに応える地元の人材、この3つが有機的に機能して成功している。

問2 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を見ても中山間地域のこと載っており、中山間地域にあまり期待をしていない印象を受ける。中山間地域から人が移転しない、農業を続けられる方策を要望する。

答2 中山間地農業の方向性として、ブランド力を強化したい。「棚田米」などのブランド力があるものは生き残れると考える。また、わらび、月山筍、リンドウなどの栽培で差別化し、観光業や大学との連携も図って高付加価値を付けてゆきたい。





中島 幸夫 議員

里山森林の利活用について 村長 後世に引き継ぐ努力を

問1 本村は、緑豊かな森林に囲まれた里地があり、美しい景観や、多様な資源、資産がある。これらを活用し、地域に根差した産業振興、雇用の確保と地域の活性化に結びつけることが大切である。暖房、調理の燃料、農作業の道具や建材として、また、植栽、育林、収穫など、生活所得も里山から得てきた。今は昔と生活様式の変化により、里山森林を身近に感じられなくなっている。荒れた里山を再生し後世に継ぐべきであるが、村長はどのように考えているか。

答1 村の86%が森林で、居住地域周辺には里山林が広がっており、恩恵を受けてきた。しかし、人の手が加えられず荒れている個所も見受けられ、景観の悪化も懸念される。里山整備事業にて、除伐、つる切りを行っている。又、資源活用では、きのこの栽培体験を小学校児童対象に実施、特用林産の分野では、きのこのみならず、わらびなどの山菜の栽培で、所得の向上

に繋げるべく栽培研修を実施している。
さて、里山森林を地域資源として後世に引き継ぐ努力をとの提言は、木材価格の低迷や、林業従事者の減少など厳しい環境ですが、新庄中核団地に国産材製材

所大手の企業進出、農業大学校の林業関連学科の新設と大いに期待するところで。現在の林業状況から考えると大きな事業展開は難しいが、里地、里山を守り、里山森林の再生と後世に引き継ぐ努力をして行く。



里山整備

問2 里山を利用して、不
用木材をエネルギーとして
無駄なく利用し、雇用に結
びつけている例もある。当
村も、公共施設やハウスに
使用できないか。

答2 民間ベースで燃料工場を建設して頂きたいと考えている。小水力発電も始まるため、行政として再生エネルギー2事業は無理である。また、将来に向けて、子ども達が森林資源に親しみ、教育を受け、就業できるように支援したい。又、県内の林業関係と協業組合の構想も視野に入れて行く。



矢口 智 議員

村長 心のふるさと大蔵村に 心の距離

問 地元高校生と語る機会があり、自分の住んでいる地域の良さについて、田舎の良さは「人情、あたたかさ」と言い、そして「心の距離が近い」と表現したことを忘れることができない。近年、その田舎の良さについてのはずの我が村から離れる人が相次いでいる。集落や地域の方々や数々の仲間との「心の距離」が、雪や職場・進学先など理由が勝り、遠くなったのでは
産業の振興、住民の福祉

答 村を去られる方には、それぞれ深い理由があると思いますが、仕事や高齢などやむを得ず去っていく人、田舎のわずらわしさから去っていく人、雪の無い新天地に心を躍らせながら去っていく人、様々な方がいらっしゃるものと思います。

一方、在住の私たちにとつては、誠に寂しく心細い思いがします。今、国政において、地方の時代、地方再生と盛んに叫ばれています。が、少し遅かったのではな
いかと思っています。
村民の皆様には常に「小さな村だからできる施策」、「住んでいる人にとって住み易いむらづくり」を村政座談会などを通じて提言し約束をしてきました。また、子ども達には、ふるさと学習に積極的に取り組んでもらっています。入学式、卒業式、成人式等で常にふるさと
の良さを伝え、ふるさと
と帰郷の願いをしています。



どこまでもつづく道

視察・要望

東京中央要望

公共事業の促進を図るため、本県選出国議員3名を訪問し、国道458号線・戸沢大蔵線・東北中央道・新庄酒田道路などの整備促進、農業競争力強化整備促進や豪雪対策支援を要望してきました。

特に国道458号線は、本村の産業や社会経済において重要な路線で、残り区間の早期整備と、肘折から寒河江市幸生間の災害防止対策など、重要な課題であり強く要望してききました。

また、議会運営の研修のため、衆議院予算委員会を傍聴し、国政の場での議員の質問・首相や大臣の答弁、議論のあり方など拝聴し、本村議会運営のあり方など、多くの課題を持ち帰りました。

この貴重な経験を活かし、本村議会においても、より円滑で、かつ妥当な議決が得られるよう努力をしてまいります。

(議会運営委員会)



学校・施設の経営、防災防犯対策は万全か

小・中学校及び翠明荘を訪問し、経営の状況や非常時の対応・施設の利用状況、通学路・非常口の確保などを調査しました。学校の経営状況では、地域や小・中との連携教育を推進しており、お互いの情報交換が図られていました。

小学校では、「いのち輝く健やかな子ども」の育成を目標とし、一人一人についての理解を深め、中学校・保育所との連携を構築したことは、今後に期待を持ちました。中学校では、「心の育成に」を目標とし、集団生活の中でのルールや道徳性の育成に配慮した体制の整備を図っていました。翠明荘では、快適で安心な介護サービスを受けられると感じました。

次に、予告なしで避難訓練を実施しているが、今後は村の総合防災訓練等に取り込めないかと感じました。通学路・非常口に関するは、管理運営体制が図られています。

小規模学校の特色を活かした、協働による地域との相互関係の継続と教育活動の推進を切に願うものです。

(総務文教常任委員会)



村民の安心生活保護対策は

冬期間の村内道路状況調査を実施した。当日は、時折小雪交じりの中、村内を限なく巡回してきましたが、地域それぞれ積雪量の違いこそあれ、住民の生活から分離することのできない冬の厳しさを、改めて痛感した。

村道については除雪が行き届いているが、一部で雪崩や雪の壁による視界不良のため危険と判断された箇所があり、早急な対策を求めた。

除雪対策としては、村内約62kmを計画路線とし、除雪機械14台をもって冬期交通の確保に努めている、全国的にも名だたる豪雪地。除雪作業者の頑張り地域住民の協力が最も大切であり、除排雪体制の充実強化が重要であると感じている。

(産業建設常任委員会)



雪の調査

東日本大震災から5年を迎えて

『危機管理』自主防災の充実のために

あの大震災から5年の月日がたちました。新聞や報道各社が特集を組み、様々な角度から検証されていましたね。

「復興」

特に印象に残るのは、復興事業の遅れ。沿岸部の水産工場等の復興に比べて、あまりにも進んでいない一般住民の住宅建設。仮設住宅から退去を求められている住民の切ない心情。比較的早く復興している印象の女川町でさえ、中心部を離れると手つかずのままの状態。大規模な復興事業を進めている陸前高田市などは完成の姿が全く思い描けな

い状況。被災した地域がそれぞれ詳細な計画を立てて復興事業を進めているのだけれど、それ以上に震災の規模が大きすぎるという事実。厳しく長い道のりです。少しでも早く進むことを願うのみです。



復興が進む南三陸町、被災した防災庁舎が隠れる程の盛土

「避難・誘導」

今回の大震災で、特に印象深かったのは避難誘導の大きな差。常日頃の避難訓練に基づいて難を逃れた地域と石巻市の大川小学校のように避難方法が二転三転し、迷走の果て大きな被災者を出したところも。危険から身を守るはずの防災センターで命を落とすという、あってはならない事実。

「津波でんこ」と言う言葉が印象深いが、住

んでいる所の状況に応じて、的確に避難できる体制を確立し、共通の理解を持っていることが大事。私たちの村も自主防災組織を立ち上げていますが、避難誘導のことを改めて確認しなければならぬと、強く思っています。

そして、多くの地域での訴訟問題。被害者と加害者の立場に立つての長い道のりを思うと、やりきれない心の痛む心境です。切ないですね。



今もそのままの形を残す大川小学校、慰霊者が後を絶たない

そうだったの！ 村議会

村議会の紹介コーナー

No.2



今回は、『議会議員の仕事』

「議員って何やってんだ！」という疑問に答えるべく、議会議員の一年の仕事を紹介してみようと思ったのですが、これがなかなか複雑。一年に4回ある定例議会の他に臨時の議会があったり、議員同士の会議があったり、視察研修や様々な公の行事など。改めて振り返ると「びっくりぽん」の心境。

『ちなみに広報委員長(矢口)の平成26年度は』

No.	内容別に分けてみた	回数	どんなことやってる？
1	本会議・臨時会	16 (16)	村長から招集される、一番大事な会議。
2	議員全員協議会など	7 (11)	議会に先立って定期的に開かれる会議等。
※	最上広域組合関係	13 (19)	最上郡全体に関すること。議長と矢口が出席。
3	視察や研修、議会報の編集	24 (42)	将来に備えての勉強、陳情・要望活動等。
4	各種行事出席	19 (48)	村内行事の他村外も。議長は大変一日2つも。

ちなみに()内の回数は、その当時の議長。



この他、村内外のお祭りや催し物への参加や、県・国会議員の様々な政治活動(選挙運動)への出席も結構あります。そして、何より大事な住民の要望や苦情に対する対応など「その時々状況に応じて柔軟に対応」と言いますが、これがなかなか難しいという意見。

先のことをじっくり考える時間が取れないとの多くの議員の声。

手帳と携帯電話に予定を書き込み、案内状を壁に張りつけ、「とにかく忘れないように」を心がけています。

村民の皆さんのご感想をお聞かせください。



3月定例議会は 3月8日(火)～11日(金)の予定です！

村民皆さんの傍聴をお待ちしています。

議会広報調査 特別委員会

委員長 矢口 智
委員 佐藤 雅之
委員長 佐藤 勝
委員 早坂 民奈

(早坂 民奈 記)

今宵は、村の子どもたちの無病息災を願って、白酒で乾杯！

「おひなさまみせてください」とかわいい声で子どもたちが家々を巡って歩くのも独特です。

リュックやバックがお菓子でいっぱいになり、子どもたちの笑顔もはちきれそう。

平安時代、女兒の厄除けと健康祈願のお祝いとして始まったひな祭り。今も昔も、わが子の無病息災を願うのに変わりはない。

たくさんの武者絵、歌舞伎絵と一緒に飾るのは、この地方独特ではないか。他から嫁いできた私には、豪華な雛菓子や、尾頭付きのにしん(かど)などの、飾り付けも物珍しく、白い卵に顔を書き「誰かに似ている、へたくそだね」と笑っていた義母の顔が思いだされる。我が家では子どもと孫のお雛様を飾り、いつの間にか昔のお雛様は蔵でお休み中。来年こそは、お披露目したいです。

後書き

お雛様に乾杯！